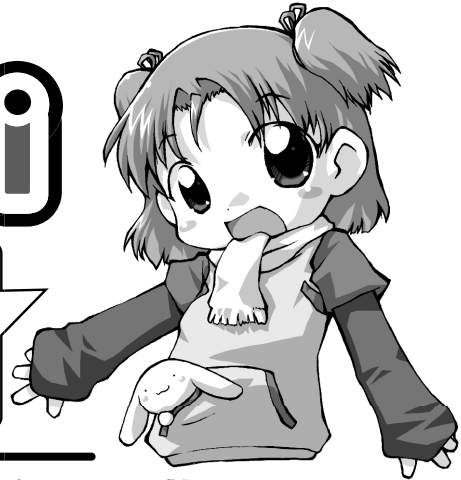


コミケビギナーのための 超・速・解 アドバイス

Comi-Navi



『冬コミに行かないと1年が終わった気がしないよ』という参加者も多い冬コミには、なにか『特別』な雰囲気があるものです。

寒くて、暑くて、そしてとにかく楽しい冬コミを元気に楽しみ尽くして、今年の最後を笑顔で飾りましょう！

■機能を考えた着こなしで冬コミも快適に！■

着ないと寒いし着ると暑くて、なかなか上手な温度調節が難しいのも冬コミの特徴。

この冬はポイントを押えて、『薄着でも暖かく』そして『高機動』な装備と衣服を考えてみよう。みんなが1枚薄着になれば、混む通路も今よりずっとラクに歩けるようになるハズ!?

● 温度調整に『レイヤーシステム』 ●

冬コミは寒い。朝の待ち時間はもちろん、帰りだってすぐに暗く寒くなってしまふ。

でも、ある時点では冬コミは暑い。

まっすぐ歩くだけでも一苦労の人ごみを身体をねじり、伸ばしてすり抜けて、数歩ごとに増えていく同人誌を詰め込んだバッグはどんどん重くなっていく。

気がつけば上着の下は汗びしょり……。そんな経験はないだろうか？

待機するときの寒さを防ぐには暖かくてたっぷりした上着が欲しいが、動き回るときには着ていると暑くて動きにくいし、脱げば脱いだで荷物になる。今回はまずこの問題から取り組んでみよう。

普段の生活では、概ね比較的薄い衣服を着た上に上着、場合によっては更にその上にコートやジャケットなどを着込んで外出するだろう。

しかし、この着込み方は温度や体温の変化に対して即応性が低いため、コミケのような環境下では、全く違った考え方で重ね着を考えなくてはならない。

その一つの例が（Photoshopなどでも馴染みの）『レイヤー』という概念だ。

『レイヤー』は『層』という意味で、文字通り衣服を機能によって層に分けて整理することで、最小限の枚数で最大限の効果を得ようという考え方なのだ。

Layer 1 第一層：汗をコントロール

直接肌に触れる下着、肌着、Tシャツなど。汗を体から吸い上げ、汗によって体が冷えるのを防ぐ。

Layer 2 第二層：温度・湿度を調整

暖かい空気を溜め込み、外気との断熱層になる。軽く、風通しがよく、動きやすいことが条件。

Layer 3 第三層：外気を防ぐ

風や冷たい空気が肌に直接触れるのを防ぎ、第二層の暖かい空気を外に逃がさないようにする上着。

Layer 4 第四層：シェル（外殻）

雨や強い風が上着の機能を低下させるのを防ぐ。上着自体にこの機能を兼用させる場合もある。